

であれば水問題論の扱う人間活動とは、両者の結びつきの関係を明らかにすることになるのではないであろうか。これはフィジカルなものがソーシャルなものに、ソーシャルなものがフィジカルなものに相互に影響を与え合うということを意味している。

現在の新しい問題に立ち向うに際して、ますます学際的な研究が必要とされているのである。学際的な研究によって各ディスイプリンが発展するという

情況に学問の発展段階が到り、また現実がそれを要請しているのであろう。しかし、学際的研究をいかにすすめるかという方法は未だ確立していない。それは、本来総合的なものである現実に柔軟なかつ真摯な態度で立向うほかはないというのが現状である。

社会文化研究・助手

シリーズ・その5

大学研究所めぐり

塚 田 守

3年前の夏の渡米は、遠い昔のなつかしい思い出になってしまっている。

留学体験記ということで、二点のことを述べたいと思う。私の見たアメリカの大学（ミシガン大学）の授業、一留学生として、私自身、一番感じたこと、この二点について。

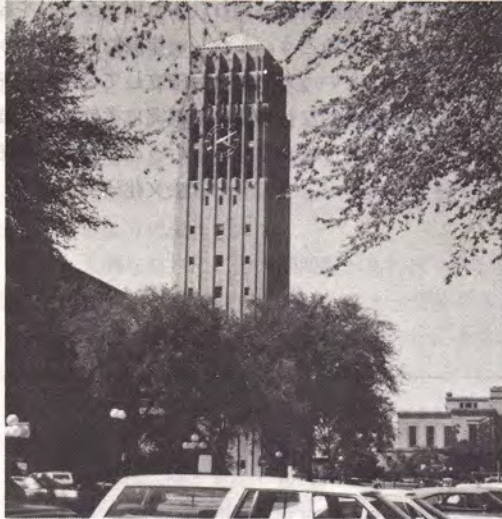
大学の英語での授業は、厳しかったものと思い出される。私が、出席したコースのうち2つの例で、典型的な授業内容を紹介したい。第1に、「アメリカの価値観」（アメリカ研究、3年生用）の講義は、週に、60分のものが2回、90分の討議クラスが1回であった。この討議クラスに参加するためには、あらかじめ、リスト・アップされている本を半冊あるいは1冊を読んで、内容を理解しておくことが必要であった。勿論、後で気づいたことだが、すべての学生（15名）が、読んでいた訳でもなかった。しかし、留学生（すくなくとも、私には）ざっと目を通すだけでも不可能であった。しかし、やっていかなければ、参加できないのは勿論、理解することも、不可能であった。だから、私のできたことは、できるだけ早く読み、理解できたところだけをノートに整理するということだけだった。この毎日の reading assignments の他に、レポート、タイプ用紙10枚が1回。中間、期末テスト、Tak Home Examで、問題を自宅で解答する形式のもの、それぞれ、タイプ用紙5枚～10枚。

第二の例としては、社会心理学であるが、冬期に出席した授業なので、少しは楽になると思っていたが、授業の形式が異っていて、この授業も、私には



困難であった。講義と討議クラスの時間配分は、「アメリカの価値観」と同様だったが、毎日の50～100ページのReading Assignmentsに加えて、1週間に1回、2枚のレポート、基礎的な概念を学び、それらを、自分の日常生活に応用したエッセイ、を書くという課題であった。このエッセイを、10回ほどだすのだが“good”がでるまで何回でも書き直させられた。勿論、中間、期末テストもあり、教室で、時間を限られて受験した時、全く、閉口させられた。

以上のように毎日（月～金）が忙しく、久しぶりに、受験時代を思わされたものだった。しかし、意外に、苦しい気分にもならず、ゲームのように、やっていたと記憶している。他の学生たちも、同様に、勉強させられていたので、そのように思えたのかも知れない。今、思えば、床に座り本を読み、図書館の閉館、午前2時まで、友人と一緒にいたことは、



楽しいことのような気がする。

勉強をゲームのように（内容が、どれだけ消化されていたかは、疑問）「楽しんだ」以外に、留学が、私にとって意義があったと思えることが、もう一点ある。「自己の再確認」であったと思う。最初の頃アメリカ人を含めて、色々な人々と友人になりたくて「努力」した。しかし、その結果、話せる友人は

だれもできなかった。「友人が欲しい」と思っていたこと、自分を、無理に、他の人に合わそうとしたこと、が、友人のできなかった原因であったかどうか、不明だが、ある時期、諦らめて、「もう、自分の好きなようにやって行く」と決心してからは、不思議なことに、話し合える友人ができた。つまり、開き直って初めて、アメリカでの生活が、自分にも自然になり、他人にも、そのように見えたのであろう。仲よくなった友人数名とCo-op Cooking（それぞれが、週1回、食事当番を受け持ち、共同に、食事をする）をやり始めた。食事の後の雑談、そしてそれぞれが、図書館なり、実験室などに出掛けた。この食事中の会話と彼らがいなかったならば、私の米滞在は、全く、無味乾燥になっていたにちがいない。勉強をするにしても、遊ぶにしても、私には、常に、回りに、気のあった友人が、必要なだという「自己確認」であったのでないかと思う。

地域研究科ヨーロッパ・アメリカ系コース

修士課程2年次

国際交流協会奨学金により、昭和52年8月より53年6月まで、ミシガン大学にてアメリカ研究を行なう。

学部の記録

— 人事異動 —

<配置換>

12. 1 榎田 和子（学務第二係）

庶務部人事課給与第二係へ

＝海外渡航者＝

（出張および研修）

石井 修（英米研究 助教授）

渡航先 シンガポール、オーストラリア

目的 1936年日豪会商に関する研究調査

期間 55. 9. 19～55. 10. 31

鈴木 修次（アジア研究 教授）

渡航先 中華人民共和国

目的 北京大学における学術講演及び学術研究のため

期間 55. 9. 13～55. 9. 23

藤井 博信（基礎科学研究 助教授）

渡航先 アメリカ合衆国

目的 金属水素化合物のエネルギー貯蔵、吸蔵

- に関する基礎的研究
 期間 55. 10. 9～56. 10. 8
 荒木 博之（英語 教授）
 渡航先 オーストラリア、シンガポール
 目的 JETROの派遣による日本文化紹介の講演並びにオーストラリア文化についての資料収集
 期間 55. 9. 29～55. 10. 13
 古前 恒（自然環境研究 教授）
 渡航先 フランス
 目的 第8回国際精油会議出席
 期間 55. 10. 11～55. 10. 20
 福岡 義隆（自然環境研究 助教授）
 渡航先 インド
 目的 昭和55年度科学研究費補助金による「南インドの干ばつ常習地域における農業開発と地域変化」に関する調査
 期間 55. 10. 11～55. 12. 10
 米田 巖（英米研究 助教授）
 渡航先 インド
 目的 昭和55年度科学研究費補助金による「南インドの干ばつ常習地域における農業開発と地域変化」に関する調査
 期間 55. 10. 11～56. 1. 12
 根平 邦人（自然環境研究 助教授）

- 渡航先 アメリカ合衆国
 目的 都市環境におけるコケ植物の種生態学的比較研究
 期間 55. 10. 16～56. 8. 15
 堀 信行（自然環境研究 助教授）
 渡航先 フランス、カメルーン、ケニア
 目的 昭和55年度科学研究費補助金による「アフリカにおける熱帯雨林、サバンナ地帯の環境変遷調査」のため
 期間 55. 12. 4～56. 2. 4
 清水廣一郎（ヨーロッパ研究 助教授）
 渡航先 イタリア
 目的 昭和55年度文部省科学研究費補助金による「地中海地域における過疎に関する調査」のため
 期間 55. 11. 29～56. 2. 1
 中根 周歩（自然環境研究 助手）
 渡航先 大韓民国
 目的 漢江及びその流域生態系における環境動態に関する基礎的研究のため
 期間 55. 11. 15～55. 12. 4
 前田 利昭（アジア研究 助教授）
 渡航先 中華人民共和国、香港
 目的 中国文学界の視察と交流
 期間 55. 12. 11～55. 12. 23

〈編集後記〉

瞳が俺の中をゆっくりと浮揚し始める。不気嫌。睡魔を断ち切るように思いきり窓をあけると、窓の外は雪。あら、広島に定着した「日常」が一瞬消え去る。

新しい明日を。 (乙武隆司)

山陰に育った私にとって雪の積らぬ冬はあまりにさみしく、中国山地から吹き込む風が、冷え症の身にこたえます。2kgたった冬に…… (岡田敏子)

はるばる大阪まで出向いたというのに学部長に会えなかった。これでもし、みんなが読んでくれなかったらどうしよう。でもまあいいや、大阪のフライそばは最高だったから。

これからも編集長のおごりを糧に頑張るぞ。

(安永省二郎)

編集の仕事は、全くはじめての経験です。今考えてみると、何をやったのか全然記憶にない。しんどい、疲れた？、とわめきたいけれど、きつい仕事は全部、先輩にまかせっきりだったようなんですね。3年の先輩方、御苦労様でした。(成田実香)

今号より登番いたしました新人でございます。以後おみしりおきのほどを。今回は、ほとんど仕事らしい仕事もせず、皆の足を引っばってばかりいた様に思います。自己分析するに、熱し易くさめ易いタチなので、いつまで続くか、はなはだこころもとないではありますがとにかくガンバリマス!!

(松浦 豊)

!!!!○×○△……グッ、留年！（としちゃん
で〜す。）

今回、華々しく初登場。というわけで仕事は少な
かったのですが……。 （ひろたに よしあき）
やった!! やっと17号の仕事がおわった!
16号は、非常に遅れたからナ〜。
ヨッシッ! 次号も頑張るぞ〜。

（雲居 司）

11月の下旬になって、1年生の新しい編集委員が
3名加わってくれた。これからも、お菓子を、むさ
ぼりつつ、編集に頑張らましょ。あ、新 大 学
あっ それから、前号に続き、カウニイ イラス
トは、53生の「よしこ」さんでした——（拍手）。

尚、今回のサークル紹介で、紹介できなかったも
のがありましたら、その存在をお知らせ下さい。

（中上京治）

<寄 集 録>

（加二吉未受）

あきや、そで集録のてはじりし、今、お山の集録
さし、行きの集録集本のて、今さ、おさ
お集録のて、さし、おさ集録のて、今さ
お集録のて、さし、おさ集録のて、今さ

（雲居 司）

あ、お山の集録のて、さし、おさ集録のて、今さ
お集録のて、さし、おさ集録のて、今さ
お集録のて、さし、おさ集録のて、今さ

（雲 龍 司）

あきや、そで集録のてはじりし、今、お山の集録
さし、行きの集録集本のて、今さ、おさ
お集録のて、さし、おさ集録のて、今さ

お集録のて、さし、おさ集録のて、今さ
お集録のて、さし、おさ集録のて、今さ

あきや、そで集録のてはじりし、今、お山の集録
さし、行きの集録集本のて、今さ、おさ
お集録のて、さし、おさ集録のて、今さ